

ヨハネの福音書 第3章 16節

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

年末近くになると光の輝きとプレゼントが盛んになる。普段あまり足を運ぶことのないデパートに向かった。例年に無く行動に注意喚起がされている時期ではあるが、買い物客の勢いはいつも以上に店内を賑わしているようだ。誰もがマスクを身に着けている光景がいつもと異なるだけだ。

会計カウンター近くに立っていると、店員さんがトナカイのぬいぐるみを籠に入れ持って来た。形といい、色といい、温もりを感じさせる、なかなか素敵なぬいぐるみである。すると店員の後ろから初老の女性が来た。見た目の年齢より足腰が弱く、それで店員さんが品物を代わりに運んでくれたのだ。カウンター係の人はすかさずご婦人を椅子に誘導し一連の手続きをする。

遠くのお孫さんにプレゼントだなあ、とこころ温まる光景を見た。自分の足腰はおぼつかなくても、ここまで来て、よりすぐりの贈り物を抱え宛名書きをしている。ご自分の身の不自由を忘れ、愛を贈る季節は良い。